

「日独共同学長シンポジウム（German-Japanese Symposium）」（2016 年開催）報告

概 要

開 催 日：2016 年 6 月 28 日（火）、29 日（水）

開催場所：ベルリン日独センター（ドイツ・ベルリン）

参 加 者：大学関係者、関係機関など約 160 名

・日本側：約 90 名（45 大学（国立 28、公立 3、私立 14 大学）、関係機関等）

・ドイツ側：約 70 名（大学、関係機関等）

主 催：国公立大学団体国際交流担当委員長協議会（JACUIE）、ドイツ大学学長会議（HRK）、ベルリン日独センター（JDZB）

テ ー マ：教育、研究、イノベーション-大学がみずから抱く学問の本質的価値と社会からの要請の狭間における高等教育（Education, Research and Innovation – The Universities' Mission between Academic Core Values and Societal Expectations）

2016 年 6 月 28 日～29 日にベルリン日独センター（ベルリン）にて、「日独共同学長シンポジウム（German-Japanese Symposium）」が開催された。

シンポジウム全体のテーマを「教育、研究、イノベーション-大学がみずから抱く学問の本質的価値と社会からの要請の狭間における高等教育」として、社会から大学に対する「イノベーション」の期待が高まる中、大学における真の「イノベーション」をいかに定義付け、社会の期待と大学が抱く価値観をいかに融合させるか、という日独共通の課題について活発な議論が行われた。

初日の 6 月 28 日（火）には、まず始めに、工学系、生命科学・自然科学系、人文社会科学系のそれぞれの視点から基調講演が行われ、午後には、「学問分野の文脈から考察する社会的・技術的イノベーションおよび社会的影響—理論と実践」をテーマにして、基調講演の各視点別に 3 つの分科会に分かれて、それぞれ発表及び意見交換が行われた。

その後、全体会合にて各分科会から報告を行うとともに、会場からは質疑応答が活発になされ、初日のシンポジウムを終了した。28 日の夜には、駐独日本国大使公邸にて、八木毅駐独日本国大使主催によるレセプションが開催され、日独の参加者同士の交流を深める良い機会となった。

2 日目の 29 日（水）には、「イノベーションおよび社会的変遷を育成するための大学の役割に関する多様な視点」をテーマとして、政策、産業、学界それぞれの視点による講演が行われた。

その後、本シンポジウムのまとめとして、総括パネルディスカッションが行われ、初日に引き続き、会場からの活発な質疑応答もあって、充実した内容で 2 日間のシンポジウムが閉幕した。

本シンポジウムの終了後、総括として共同声明がまとめられ公表された。

その中で、大学と社会の融合が成功するために適用されるべき 3 つの先導的原則が次のとおりとまとめられた。

- ・基礎を健全な教育と訓練に置く
（Laying the foundations with sound education and training）
- ・分野横断的、セクター横断的な協力の促進
（Promoting transdisciplinary and transsectoral cooperation）
- ・教育研究の本質と必要性に適した基金制度と業績評価基準の創設
（Establishing funding schemes and criteria for performance measurement that are adequate to the nature and the needs of education and research）

今回のシンポジウムを契機に、今後も両国における交流が更に活発になることが期待される。



発表者等による集合写真
 (右から3番目：永田JACUIE座長)
 (左から3番目：ヒップラードイツ大学学長会議会長)



初日の全体会合の様子
 (左：高橋新潟大学学長)
 (右：三島東京工業大学学長)

日独共同学長シンポジウム（1日目）

- ・日時：6月28日（火）10：30～18：00
- ・場所：ベルリン日独センター
- ・会議言語：日本語及びドイツ語（同時通訳つき）※分科会B、Cは英語（通訳なし）

【開会挨拶】

神余 隆博 氏（ベルリン日独センター総裁）
 永田 恭介 氏（JACUIE 座長、筑波大学学長）
 ホルスト・ヒップラー 氏（ドイツ大学学長会議会長）
 八木 毅 氏（駐独日本国大使）



神余 隆博 氏
 (ベルリン日独センター総裁)



永田 恭介 JACUIE 座長
 (筑波大学学長)



ホルスト・ヒップラー 氏
 (ドイツ大学学長会議会長)



八木 毅 氏
 (駐独日本国大使)

【基調講演】

テーマ：「イノベーションと研究・教育・学習における社会的影響—その意義および達成する術」
司 会：ホルスト・ヒップラー氏（ドイツ大学学長会議会長）

視点（分野）	発表者	所属・職
工学系	ゲアハルト・フェットヴァイス氏	ドレスデン工科大学ヴォーダフォンモバイルコミュニケーションシステムズ講座・教授
生命科学・自然科学系	永田 見生氏	久留米大学学長 兼 整形外科学講座・主任教授
人文社会科学系	マルクス・ヒルガート氏	プロイセン文化財団ペルガモン博物館古代オリエント部門・部長



ゲアハルト・フェットヴァイス氏
（ドレスデン工科大学教授）



永田 見生氏
（久留米大学学長）



マルクス・ヒルガート氏
（プロイセン文化財団
ペルガモン博物館部長）

【分科会】

テーマ：「学問分野の文脈から考察する社会的・技術的イノベーションおよび社会的影響—理論と実践」

分科会	司会者(*) および発表者
A 人文社会系	ディータ・レンツェン氏*（ハンブルク大学学長、ドイツ大学学長会議副会長） ペータ＝アンドレ・アルト氏（ベルリン自由大学総長） 森田 典正氏（早稲田大学・国際担当理事）
B 工学系	三島 良直氏*（東京工業大学学長） エルンスト・シュマフテンベルク氏（アーヘン工科大学学長） 山口 宏樹氏（埼玉大学学長）
C 自然科学・生命科学系	高橋 姿氏*（新潟大学学長） アルブレヒト・ワグナ氏（ドイツ電子シンクロトロン研究所名誉所長） 永田 恭介氏（筑波大学学長、国公立大学団体国際交流担当委員長協議会座長）



分科会Aの様子



分科会Bの様子



分科会Cの様子

【全体会合（分科会報告）】

司 会：ホルスト・ヒップラー氏（ドイツ大学学長会議会長）

	分科会	報告者	所属・職
A	人文社会系	ゲジーネ・フォリヤンティ＝ヨースト氏	マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク政治学日本学科・教授
B	工学系	三島 良直氏	東京工業大学学長
C	自然科学・生命科学系	高橋 姿氏	新潟大学学長



全体会合（分科会報告）の様子



会場の様子

【特別報告】

テーマ：「イノベーションを目指す日本の科学技術政策」

発表者：岩松 潤氏（内閣府参事官）、岸 輝雄氏（外務省科学技術顧問参与）



岩松 潤氏
（内閣府参事官）



岸 輝雄氏
（外務省科学技術顧問参与）

日独共同学長シンポジウム（2日目）

- ・日時：6月29日（水） 9：00～12：00
- ・場所：ベルリン日独センター

【全体会合】

テーマ：「イノベーションおよび社会的変遷を育成するための大学の役割に関する多様な視点」

司 会：片桐 恭弘氏（公立はこだて未来大学学長）

視点（分野）	発表者	所属・職
政策	松本 英登氏	文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長
産業	ミヒャエル・ヘラー氏	オットー有限合資会社カテゴリーマネジメント 担当取締役 兼 副代表
	樽見 和明氏	元メルク株式合資会社物理学研究部長
学界	山崎 光悦氏	金沢大学学長
	ディータ・レンツェン氏	ハンブルク大学学長、ドイツ大学学長会議副会長



松本 英登 氏
（文部科学省国際企画室長）



ミヒャエル・ヘラー氏
（オットー有限合資会社 取締役兼副代表）



樽見 和明 氏
（元メルク株式合資会社）



山崎 光悦氏
（金沢大学学長）



ディータ・レンツェン 氏
（ハンブルク大学学長、ドイツ大学学長会議副会長）



質疑応答の様子

【総括パネルディスカッション】

テーマ：「イノベーションおよび社会的変遷を育成するための大学の役割—大学の本質的価値と社会からの要請の狭間で」

司 会：ディータ・レンツェン氏（ハンブルク大学学長、ドイツ大学学長会議副会長）

パネリスト	所属・職
ミカエル・カルマノ氏	南山大学学長
ユルゲン・ホーヴァルト氏	ドルトムント工科大学ドルトムント社会研究所所長
クラウス・ゼムリンガー氏	ベルリン工科経済大学学長
大西 隆氏	日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長



（写真左からゼムリンガー氏、大西氏、レンツェン氏、カルマノ氏、ホーヴァルト氏）